

院内交流から地域交流へ ～創刊31年を迎えた『のむらだより』～

尼崎市・野村病院 石田 千絵（事務）

野村医院は1954年尼崎東本町に開業し、この10月で65周年を迎え、先代の野村和夫院長が「皆さんに訴えたいこと、知っていただきたいことが多くなってきた」と、1988年に創刊された「野村医院だより」は、この10月で創刊31年をむかえました。

白黒2ページから出発した院内新聞は、現在カラー刷り4ページとなり、2013年に地域のみなさんの暮らしを医療だけでなく、介護、福祉の面からも支援できるように「地域生活支援ハウスのむら」を開所して以降は、それまでの院内交流から地域交流の役割を担うようになってきました。

私たちが目指す地域に根ざした医療や介護、福祉について、院内だよりの歴史を振り返りながら、共に考えていけたらと思います。